

# 學習指導案（略案）

# 算数科学習指導案（略案）

平成 23 年 2 月 4 日（金） 2 校時  
 小学部 1・2年グループ 男子3人 女子3人 計6人  
 場所 小学部 1 組 教室  
 指導者 白土 暢之 (CT) 野間口 裕子 (ST)

## 1 題材 「くらべてあそぼう」

## 2 本時の実際 (10/18)

### (1) 全体目標

- 3個以上の具体物や半具体物を直感的に比較し、物の大きさの違いを基準として並べる操作を通して、「一番大きい」「一番小さい」と表現することができる。

### (2) 個人目標

児童	個人目標
A児 (1年, 男)	○ 3個の物を見比べて、大きさの違いに気付き順番に並べたり、教師の発問に答えて、「大きい(小さい)」と表現したり、手にとって選んだりすることができる。
C児 (1年, 女)	○ 3個の物を見比べて、大きさの違いに気付き順番に並べたり、2個の物から「大きい(小さい)物」を手にとって選び、シンボルカードや身振りで表現することができる。
D児 (2年, 男)	○ 3個の物を見比べて、大小の順番に並べたり、シンボルカードを手掛かりにして、「一番大きい(小さい)物」を指さしたり、言語化したりすることができる。
B児 (1年, 男)	○ 3個以上の物を見比べたり、重ね合わせたりして比較し順番に並べたり、「一番大きい(小さい)物」を、指さして選ぶことができる。
E児 (2年, 女)	○ 3個以上の物を見比べたり、重ね合わせたりして比較し、「一番大きい(小さい)」と言葉で表現することができる。
F児 (2年, 女)	○ 3個以上の物を見比べたり、重ね合わせたりして比較し、「一番大きい(小さい)」と言葉で表現することができる。

### (3) 指導及び支援に当たって

#### 学習活動の概要と授業環境の工夫

本グループの児童は、前時までには、具体物を操作する中で、物の中の量の差異に気付き、物の大きさを「大きい」「小さい」という用語やシンボルカードを手掛かりに判断したり、表現したりすることができるようになってきている。また、学習活動の中で、3個以上の物を使っての比較にも取り組み、量を相対的にとらえたり、3個以上の物を系列化し、「一番大きい(小さい)」という概念も獲得しつつある子どももいる。そこで、本時では、前時に使用した教材・教具の数を増やし、比較することで、3個の物を系列化したり、「一番大きい(小さい)」という用語に対する理解を深めたりして、「(物の数が変わっても)できた・わかった」という実感を味わうことができるようにしたい。学習活動では、集団と個別的な学習を効果的に取り入れ、個々の目標にせまることができるようにし、具体物を操作する機会を多く設定できるようにしたい。

#### 教材・教具とのかかわりについて

集団の場面では、大中小の3種類の大きさの家を提示し、同じく大中小の3種類の具体物や半具体物を用いて、大きさの違いに気付き、家の大きさを手掛かりにしなが、順番に並べるようにしたい。その際、児童の実態に応じて、具体物を「大きい(小さい)」に分けることができる板(以下、比較板)を用いて、物の大きさを確認できるようにしたい。

個別的な学習の場面では、児童の実態に応じて、取り扱う半具体物の数を3個から5個の間で設定し、比較して系列化したり、物の大きさを表現したりすることができるようにしたい。また、大きさの差の少ない5個の物を取り扱うことにより、重ねて比べる直接比較のよさを味わうことができるようにしたい。

#### 人(友達や教師)とのかかわりについて

個別的な学習では、課題の似通った児童でグループ編成を行い、互いの活動の様子が見える座席配置に留意し、友達や教師の様子をモデルとしたり、個々の学びに気付いたりすることができるようにしたい。発表場面においては、発表の様子がよく見えるような座席配置にするとともに、具体物を用いた活動の再現等を取り入れ、友達の様子に意識を向けることができるようにしたい。

#### 自分とのかかわりについて

比較する活動においては、「どれが一番大きい(小さい)か」を児童が予想し、比較板を用いたり、重ねたりして結果を確かめたりすることができるようにしたい。また、自分の行った比較操作を自分なりの言葉で説明したり、再現したりすることで、友達や教師の称賛を受け、「できた・わかった」という実感を味わうことができるようにしたい。

(4) 実際

過程	主な学習活動	指導及び支援の手だて	資料・準備
向かう (10分)	1 始まりのあいさつをする。 2 コンコンクシヤンの歌遊びをする。 3 前時までの学習を想起し、本時の学習について知る。 (1) 前時の学習を発表する。 (2) 前時の活動を再現する。おうちをつくろう。(2軒) (3) 本時の学習を知る。 おうちをつくってくらべよう。(3軒)	<ul style="list-style-type: none"> <li>当番の児童が、みんなの前で元気よくあいさつするようにする。</li> <li>歌遊びを通して、本題材にかかわりのある量に関する用語に楽しく触れることができるようにする。</li> <li>前時に使用した教材(絵本)を見たり、活動を再現したりして学習を想起できるようにし、「比べる」「並べる」「一番大きい(小さい)」など本時の学習と結び付く言葉や身振りを引き出すようにする。</li> <li>使用する教材・教具を提示し、活動への意欲を高めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パネルシアター</li> <li>絵本</li> <li>家</li> <li>具体物</li> <li>半具体物</li> <li>比較板</li> <li>シンボルカード</li> </ul>
かかわる (25分)	4 3種類の家を作る。 (1) 活動内容を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>大中小の家に大中小の人形や大中小の家具類(パネル)を置く。</li> </ul> (2) みんなで家を作る。 ① 席を移動し、ゲームの場所を整える。 ② 一人ずつ封筒を拾ってきてパネルを置く。 ③ みんなで確認する。 (3) パネルの大きさを比べ、並べる。(個別的な学習) A児・C児・D児:CT B児・E児・F児:ST ① 席を移動し、道具の準備をする。 ② それぞれの課題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>比較操作をして、パネルを系列化する。</li> <li>「一番大きい(小さい)」を表現する。</li> <li>パネルの種類を変えたり、取り扱う数を変えたりして、繰り返し取り組む。</li> </ul> ③ 道具の片付けをした後、最初の座席位置に戻る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>CTは、モデルとして、封筒の中にあるパネルを3枚取り出し、ホワイトボードにはり児童に確認する。その後、一枚ずつ家に置いていく。その際、わざと間違えるようにし、「ちがう」「こっち」等の児童の反応を引き出し、大きさに着目できるようにする。</li> <li>机の上に家(ホワイトボード付き)を置き、物の大きさが児童から確認しやすいようにする。</li> <li>比較板を置いた机を設定し、そこで物の大きさを確認することができるようにする。</li> <li>確認する際には、「一番大きい(小さい)」を言葉やシンボルカードを用いて表現できるようにする。</li> <li>課題の似通った児童でグループを作り、個別的な学習を行うようにする。</li> <li>教材・教具を自分で準備し、活動に意欲的に参加できるようにする。</li> <li>児童の活動の様子を見ながら、繰り返し、活動に取り組むことができるようにする。</li> <li>CTのグループでは、個別的な活動を中心に支援し、シンボルカードや比較板等を用いて、大きさの順番を意識できるようにする。</li> <li>STのグループでは、3個以上の物の比較に取り組むようにする。また、比較する際には、児童が考える場面を設定し、重ねると比べることができることに気付くようにする。</li> <li>教材・教具を片付け、座席を移動することで個別的な学習の終わり振り返りを意識できるようにする。</li> <li>発表は、グループごとに挙手や指名で行うようにする。</li> <li>児童の個人目標等に応じて、活動を再現することや、発問に答えることで「できたこと」「分かったこと」を実感できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机(4)</li> <li>家(3)</li> <li>人形(3)</li> <li>家具等のパネル(3×6)</li> <li>シンボルカード</li> <li>比較板</li> <li>B児用選択カード</li> </ul>
見つめる (10分)	5 本時で学習したことを振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>発表する。</li> <li>活動を再現する。</li> <li>一番大きい(小さい)物を選ぶ。</li> </ul> 6 次時の予告を聞く。 おうちをつくってくらべよう。(4軒)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表は、グループごとに挙手や指名で行うようにする。</li> <li>児童の個人目標等に応じて、活動を再現することや、発問に答えることで「できたこと」「分かったこと」を実感できるようにする。</li> <li>次時に使用する教材・教具を提示し、活動への期待感を高めるようにする。</li> <li>当番の児童が、みんなの前で元気よくあいさつするようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家</li> </ul>

(5) 評価

- 3個以上の具体物や半具体物を直感的に比較し、物の大きさの違いを基準として並べる操作を通して、「一番大きい」「一番小さい」と表現することができたか。